

平成27年9月25日号

発行所／(有)アミックス
〒950-2002 新潟市西区青山2-6-9-210
tel 025-234-6645 fax 025-234-6647

Sibata Orange Press

シバタ オレンジ プレス ■毎月25日発行 vol.45

特集 屋根付グラウンド建設に向けて



「しばた」
を知って楽しみ、
「新しいしばた」
の町をつくる新聞

菊水

そろそろ、
大人の「しが」
わかつてきた。

菊水酒造株式会社
お問い合わせお客様相談室
〒957-0011 新潟県新発田市島潟750
www.kikusui-sake.com



ふなぐら菊水番しがり

二手に分かれた8列の隊列がX字型にぶつかることなく交差する。あるいは四角く固まつた集団が一瞬にして円形の隊列になつたり、V字型の隊列になつたり…。しかも姿勢は常に美しく、行進の列は乱れることがない。テレビで見たことのある手品のようなパフォーマンスが、五十公野のサン・ビレッジ「しばた」で繰り広げられた。

「集団行動」といわれる演技を練習していたのは日本体育大学の有志学生78人、指導スタッフ5人。この11月の横浜アリーナでの発表会のため、9月17日～22日までの1週間にわたり強化合宿が行われた。取材のテレビ番組制作クルー6人が5台のカメラで撮影する中、午前9時～12時、午後2時～5時まで途中休憩することなく、厳しい練習が続いた。

日本大の合宿の一回は延べ623人（宿泊は延べ534人）となり、経済効果が大きいうえに、ドキュメンタリー放送時には新発田の名前も出るので、宣伝効果も期待でき。

19日には授業で「集団行動」を実践している佐々木中学校の生徒30人が豊浦体育センターで、日本大の学生から行進の基本、さらに二手に分かれた隊列が行進しながら交差する高度な技術を教わった。そして高難度の技を実現するためには技術はもちろん、「心」一つにすることの大切さ」を学んだといふ。一流チームと地元の子どもたちの交流は、大きな教育効果をもたらしたのだ。

日本体育大学の「集団行動」、サン・ビレッジで大規模合宿

精いっぱいのおもてなしで
首都圏からの合宿を歓待

日本大の合宿誘致は1日にしてなったの

ではない。最初のアプローチから実に2年

半の時間を要している。その陰には当時の

観光振興課や現在担当するスポーツ推進課

ら、市職員の血のにじむような努力があつた。不可能と言われた「路谷虹兒・パリ展」を見えないところで、まるで水に浮かぶアヒルのように水をかき続けた。

そして、日本大の合宿中は連休中だった

にもかかわらず、担当職員が張り付いてこ

まごまと世話を焼いていた。18日には扶桑

畜産から越後もち豚20kg（しょうが焼きに

なつた）が、19日には高橋農園からぶどう30

kgが、20日には地元のお菓子が差し入れら

れた。市長も19日に訪問して歓迎の意を表

し、学生たちを激励した。まだまだ官民挙げ

ての歓迎とは言えないかも知れないが、精

いっぱいの「おもてなし」をしたのである。

市長はこの問い合わせに対し「9月議会で、以

下のように答えていた」「トップセールスで

一番指摘を受けるのは屋外スポーツの場合

の雨・雪・天候。1週間行つても雨で練習

ができない理由がつかない。そういう意

味では屋内体育館（屋根付グラウンド）があ

る」と非常に助かると、強く言われておひま

す。これを改善すれば大きく前進します」。

さらに、青少年のスポーツを通じての健

全育成でも「野球やサッカーなどの屋外ス

ポーツでは、土のグラウンドを求めて関川

村の屋根付ゲートボール場で練習したり、

サッカーのFC五十公野は雨が降るとグラ

ウンドに水がたまって2、3日練習が出来

ないし、冬場は体育館内部で練習したりし

ている。これは野球・サッカーの練習場所

がないという問題にどうまらず屋内スボ

ーツの練習場を奪うことにもつながってい

る。バスケットボール部、冬場はハーフコー

トでの練習しかできないなど、弊害は大き

い。屋根付グラウンドが必要だ」と指摘さ

れ、これに対して市長は「あつたらしいとい

うことで（建設費を）概算したところ、フッ

トサル2面ほどの広さで6億円程度かか

る。しかし、諦めているわけではなく、担当

課では文科省、国交省、いろんな補助事業の

メニュー探しをやっている。これからもア

クセ、突破力と専門性のある職員をこの任

に充てた。

そしてイースタンリーグ「巨人・西武戦」

や高校生の「オレンジカップ大会」を実現

べばまだ小さい。今後の課題は何か。

2分21敗。対して南アフリカは24勝4

敗、優勝2回。まさか勝てることはファン

のだれもが思つていなかつた▼が、

戦っている選手たちは違つた。試合終

了2分前、3点差で負けていた。そこで

相手ゴール前で反則を得た。ペナル

ティキックが入りれば同点の場面、リー

チ主将は迷わずスクラムを選んだ。ト

ライを獲れば逆転、ラストワンプレー

で勝ちに行つた▼テレビの前で鳥肌が

立つた。ここでギャンブルか。しかし、

チ主将

循環型社会の好例、真庭市。捨てればゴミ、使えば資源。

森林が面積の8割を占める町。
長い不況から抜け出す決め手は?

バイオマス(植物などの生物資源)で町おこしを進めている岡山県真庭(まさにわ)市。人口5万人弱、面積約8228km²、新発田市の倍近くの面積に半分の人口が住む。町の8割を森林が占め、その森林面積は新発田市全体よりも広い。真庭市は原木市場が3市場、製材所が30社、木材製品市場が1カ所ある林業・製材業の町である。しかし、昭和39年の木材輸入の完全自由化に端を発した国産木材の価格の下落、需要の低迷で山は荒れ、林業・製材業は衰退、若者は都会に流失へ人口は減少した。

そんな状況に危機感を持った地元若手経営者や各方面のリーダーが参加して「21世紀の真庭塾」を立ち上げた。当初テーマになつたのは町並み景観保存であり、やがて循環型地域社会の創造に移った。前者は勝山町並み保存地域(国交省美しまいちなみ大賞受賞)の整備につながって支架構造を生み出し、後者は「バイオマスマッシュ」として再利用する道に進んだ。「おが屑」は捨てれば「産業廃棄物」だが、再利用すれば立派な資源である。

「おが屑」を「木質ペレット」にして発電、大きな利益・雇用の拡大につなげる

真庭市周辺では年間約8万トンの木屑などの製材屑が発生しているが、半分の4万トンを排出するのが売上高216億円。従業員約250人の株銘建工業である。平成9年、建材だけではジリ貧で経営も苦し

たおが屑で発電する」発電所を工場構内に建設した。いわゆるバイオマス発電である。家庭4千400世帯分だ。これで工場で使う電気をすべてまかない、電気代年間1億円を節約している。夜間は電気をあまり使わないで余った分は電力会社に売る。その収入が年間5千万円。さらに「おが屑」を産業廃棄物として処理すると年間2億4千万円かかる。1年間で合計3億9千万円の得。建設費は10億円だったので、単純計算なら2年半でペイしたことになる。あとは儲けと雇用拡大につながった。

広がりを見せるバイオマス、食廃油をバイオエタノールに

4万トンの「おが屑」は自社の発電だけで使いきれず、直径6または8mm、長さ2cmの円筒形に凝縮して「木質ペレット」に加工し、燃料として販売している。主に一般家庭のストーブや農業用ハウスのボイラーフuelとして利用されている。ハウスでは暖房用に重油を焼くのだが、重油は大きく価格が変動するので、経営計画を立てにくい。それに対して「木質ペレット」はキロ20円と安価なうえに価格変動がない。

それでも「木質ペレット」はまだ余るので、真庭市や森林組合など9団体が出資して1万kw(一般家庭2万2千戸分)を発電する「真庭バイオマス発電所」を建設し、今年の春から稼働させた。

このほか、「おが屑」でのきのこ栽培、「おが屑」を使ったバイオマス堆肥の生産、小学校の暖房、温水プールボイラーナーなど使い方

は枚挙にいとまない。

「捨てていた木屑が原料になるのなら」と始めたのが、廃食油(天ぷら油など)を原料にしたバイオディーゼルフェエル(BDF)事業だ。理論上、二酸化炭素がまったく出ず、硫黄酸化物も出ない。各家庭や飲食店・旅館でペットボトルに食廃油を詰めてゴミ収集車が回収、専門施設で精油、軽油の代わりにディーゼル燃料として、自動車や温泉の加熱に使っている。

対応するため、真庭観光連盟が主催して「バイオマス真庭」をパックツアとして売り出した。その後消費者ニーズに対応して、「木質バイオマスコース」「バイオマス真庭視察コース」「学習体験コース」「カーボンオフセットツアー」など、目的に応じて商品数を増やし、土産品も開発した。これに伴って、昨年は年間ツアーゲスト約3千人、売上高約2千500万円、宿泊者数約1千500人となった。ツアーパートナーは1泊2日で1万5千円、日帰りで8千円。このツアーミソは宿泊費・交通費・昼食代が別なこと。結果的に経済効果は6千万円以上と試算されている。

真庭市役所の冷暖房も木屑ボイラー、バイオマスタウン視察はツアーパートナーとしている。真庭市役所には「バイオマス政策課」という専門部署があり、バイオマスだけでなく、木材の利用方法を徹底的に研究・支援している。例えば、ペレットストーブやボイラーフuel購入に補助金を用意しているし、市役所の冷暖房は木材チップ・木質ペレットを燃料にしている。最近は「研究所を立ち上げた。また、平成18年からは殺到する視察者に予約は専用ホームページから行うのだが、20人が最少催行人数で、個人客の場合は原則月1回の「個人・小グループの日」が設けられている。ちなみに、取材時に案内してくれたのは岡山市からのIターン者だった。いわく「民間の会社が元気になってくれたので雇用は増えているのですが、地元の方だけでなく、ツアーパートナーに参加した方が移り住んでくる例もあります」とのこと。

今ある優位性を徹底的に育てる

真庭市がバイオマスで成功したからといって、新発田市がそのまま真似することは難しい。なぜなら、新発田市およびその周辺では製材所がそれほど多くなく発電に必要なだけの「おが屑」を集めることはできない。真庭市が成功したのは「おが屑」がすでに大量にあったからである。

学ぶべきは「今あるもの」に注目しその



農家の直売所
くとんくとん市場

●新発田店 9:00~18:00
新発田市荒町1480
0254-20-2229
●松崎店 9:00~19:00
新潟市東区新松崎1-6-14
025-274-2229



しらいけいこピアノ教室 リトミック教室

幼稚園・保育園
勤務経験あり

生徒募集中

プレピアノ&知育コース	(2歳~)月3回/30分	4000円
ピアノコース	(3歳~)年間42回/40分	5000円
	(小学生1年~2年)40分	5500円
	(3年~)40分	6000円
楽しいリトミックコース	(0歳~就学前)1回/30分	1000円

月曜~金曜/10時~
※土日はお問い合わせ下さい。

※次回はご予約下さい。

無料体験レッスン受付中！ お気軽にお問い合わせください
新発田市東新町2-4-8 **0254-26-6683** (白井 啓子) しらいけいこピアノ教室 検索

